

# 第1回宮城県教育復興懇話会における論点整理表

( ) 内は発言者名。敬称略。

<p><b>心のケア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今必要な心のケアは、今は気持ちがまだ張りつめているので良いが、秋口から心配(武田)</li> <li>●今後本格化するPTSDへの対応について、少なくとも2年目までは継続して行うべき。兵庫で初めて全校にスクールカウンセラーを配置したような手当が必要(梶田)</li> <li>●心のケアは、言われずともやるべき(澤)</li> </ul>
<p><b>学校機能の復旧</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設の復旧について、現状復帰の原則を変えることが必要。ただ単に今までと同じ学校の造りではなく、色々なことに対応できる学校にすることが必要(武田)</li> <li>●復旧から復興へもっていく時は、元の場所に同じ校舎・設備では勿体ないので、適正な配置を考えるとともに、施設設備やスペースや校庭の取り方等もこれからの在り方を考えて整備していくべき(梶田)</li> <li>●再生・復興し、その後には再編ということではいけない(山田)</li> <li>●学校のハード面での再生に当たっては、最先端の視聴覚機材を揃えるなどして、学校をコミュニティの中で魅力あるものにし、全国や世界から注目される発信力のある形で進めて欲しい(澤)</li> <li>●交流の場としての学校づくりをすれば、災害時の空間として地域を豊かにし、日常の子ども達の教育環境も豊かになるので、交流の場としてハード・ソフト両面からセットで学校を整えていくことが大事。(山田)</li> </ul>
<p><b>志教育・生き抜く力・本当のキャリア教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●志教育の根底にある「心育て」は今がチャンス(武田)</li> <li>●命の教育に本気で取り組むことが肝要(梶田)</li> <li>●家族や地域のありがたみ、絆を実感し、他人のために自分は何をやれるのかという教育に本気で取り組むことが肝要(梶田)</li> <li>●夢と志の実現に向けてチャレンジする姿勢の一層の強化が必要(梶田)</li> <li>●手段として、インターンシップによる世の中の実感が必要(梶田)</li> <li>●志教育は、現場での体感が非常に重要(山田)</li> <li>●どう力を付け、どういう形で社会参加し、どういう役割を果たすかという、本当のキャリア教育が必要(梶田)</li> <li>●本当のキャリア教育の一環として、産業教育、インターンシップを考えるべき(梶田)</li> <li>●子どもの元気さやチャレンジ精神を引き出す施策に視点を置くべき(澤)</li> <li>●自分と対話し、時には鞭打ち、自省自戒しながら、将来の在り方に気持ちを持っていかせることが必要(梶田)</li> <li>●志の実現の土台となる学力(知識や知的な能力)の付与が必要(梶田)</li> <li>●高校の卒業生の職の問題、地域リーダーの育成の問題の解決につなげるために、多様な業務体験ができる公務員のインターンシップ事業をシンボリックに展開してはどうか(澤)</li> <li>●学力を補う意味で、地域学習支援センター事業は必要(武田)</li> <li>●世の中で重要になる複合的な学問を教授する教育の方法論も検討すべき(澤)</li> <li>●学校と家庭・地域・企業等が共同し、それをつなぐ場(組織)がなければ、志教育は理念に終わる(山田)</li> <li>●志教育は、ア)県教委、イ)地教委、ウ)学校、エ)家庭・地域の4層に分けた課題の具体化が必要(梶田)</li> <li>●学力重視主義の中で、現場での体感が重要な志教育との整合性をいかに図るかが必要(山田)</li> </ul>
<p><b>学校の防災拠点・地域拠点機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●交流の場としての学校づくりをすれば、災害時の空間として地域を豊かにし、日常の子ども達の教育環境も豊かになるので、交流の場としてハード・ソフト両面からセットで学校を整えていくことが大事。(山田)</li> <li>●学校をコミュニティの中心とすること。明治時代は、地域の中で学校が最先端の視聴覚機材などを揃えていた。学校を魅力あるものにすることで、子どもを働かせようとしていた親に、まず学校に行かせようとした訳であるが、いつの間にか一番遅れているのが学校となっている。ハード的再生に当たっては、日本の学校では見かけないような考え方に基づいたものを作り、全国や世界から注目される発信力のある形で是非やって欲しい(澤)</li> <li>●安全なコミュニティプランニングをする場合、学校は防災拠点にもなるし、逆に言えば学校は非常に安全でなければならない。また単に学校としてだけ造るのではなく、コミュニティセンターなどの公的な施設と複合化して造る考え方もある。今後、学校再配置とコミュニティのハードプランニングの在り方を提言していきたい。(山田)</li> <li>●学校施設の復旧について、現状復帰の原則を変えることが必要。ただ単に今までと同じ学校の造りではなく、色々なことに対応できる学校にすることが必要(武田)</li> <li>●あらゆることに対応できる防災教育にもっと力を入れるべき(梶田)</li> </ul>

**学校と家庭・地域との連携**

- 学校が、家庭や地域に積極的に関わらなければ、早寝早起き朝ご飯や躰はスローガンに終わる(梶田)
- 学校と家庭・地域・企業等が共同し、それをつなぐ場(組織)がなければ、志教育は理念に終わる(山田)
- 学校行事への地域住民の参加や地域行事への児童生徒の参加支援等、学校が、積極的に地域と関わり一体となる取組の強化促進が必要(梶田)
- 地域の教育力は、地域の様々な活動の中で実現されるため、今回を機に地域コミュニティの再生という根源に戻った施策が重要。(山田)
  
- 家族や地域のありがたみ、絆を実感し、他人のために自分は何をやるのかという教育に本気で取り組むことが肝要(梶田)
- 志教育は、現場での体感が非常に重要(山田)
- 手段として、インターンシップによる世の中の実感が必要(梶田)
- どう力を付け、どういう形で社会参加し、どういう役割を果たすかという、本当のキャリア教育が必要(梶田)
  
- 志教育は、ア)県教委、イ)地教委、ウ)学校、エ)家庭・地域の4層に分けた課題の具体化が必要(梶田)
- 世の中で重要になる複合的な学問を教授する教育の方法論も検討すべき(澤)

**その他**

- 計画の推進に向けて、魂が抜けてしまわないような仕組み・仕掛けをビルトインすべき。(澤)
- 県はもっと庁内連携を。(ex.復興支援センターと学校を拠点にしたコミュニティの再生やインターンシップの仲介の連携)(山田)
- 必要な知識やスキルは県内にあると限らないので、外との交流などプログラマティックに事業に組み込んでいくことを検討すべき。(澤)
  
- 今の仕組みでやりにくいものがあれば、県行政の役割として、国に働きかけることが必要(特例法の制定など)。県は地教委からの要望を受け止めるだけでなく新しいビジョンを地教委に出していくべき。学校は設置者の判断で自由にできる部分を正しく認識して地域のニーズに合ったことをやるべき。(梶田)
  
- 施策の整理に当たっては、時間軸(すぐやるべきこと、時間をかけてするべきこと、今回をチャンスと捉えてやるべきこと)と、主体(県、地教委、学校、家庭・地域)に分けて考えることが必要(梶田)